

# がたモニタリング

第4号

2011年5月21日発行  
認定NPO法人生態工房  
167-0054 杉並区松庵3-38-14-2D

## がたモニとは？

がたモニは、江戸前・三枚洲の干潟を守る市民参加の楽しい活動です。干潟の生きもののモニタリング（定期調査）、生きもののすみかを守る野外作業、干潟の生きものを知る観察会などを通して、三枚洲の自然に親しみ、未来へと伝えていきます。

## 三枚洲を知っていますか？

東京湾の豊かな自然を回復させるために整備された東なぎさ、西なぎさの人工干潟は、東京湾で残り少ない干潟として、大切な生物のすみかになっています。その沖合にひろがる自然の干潟・浅瀬が『三枚洲』です。干潟の沖合への張り出しは、1.5kmにも及び、湾内で最大規模。荒川と江戸川が注ぎ込み、貝類、魚類などの産卵・生息地としてさまざまな生きものを育てています。日本に渡来するスズガモの約3割、20,000羽が越冬するほか、キョウジョシギなど多数のシギ・チドリ類が生息しています。三枚洲は「東京湾の干潟・浅瀬」として環境省「日本の重要湿地500」に選定されています。



## がたモニレポート



## 鳥の足型標本づくり 2011年1月23(日)実施

砂浜にはいろいろな鳥がやってきます。足形をみつけてどんな鳥かな?と考えるのはとても楽しいです。大きい鳥、小さい鳥、水かきがある鳥、などなど、たくさんの発見がありました。水かきのあるユリカモメやダイサギらしい大きな足跡、小さなイソシギやハウセキレイの足形を見つけました。標本づくりは、干潟に残された水鳥の足跡を石膏で型どりします。足型標本は30分ほどで完成。そっと持ち上げて、砂を洗い流します。写真は参加者の作品。足跡の向きを互い違いにしている、秀逸ですね!

## カニのダンス - 『Waving』は恋のシグナル



踊るチゴガニ その1

学問的に言えば、「カニ」は、十脚目（じゅっきゃくもく）と呼ばれる、脚を10本もつ生き物の仲間です（この十脚目には、カニ類以外にエビ類やヤドカリ類が含まれています）。ところで、この10本の脚のうち「はさみ」と呼んでいる2本の脚をうまく使って「ダンス」するカニがいることをご存知でしょうか？「ダンス」は、はさみ脚を中心とした全身のリズミカルな運動で、『Waving（ウェービング）』と呼ばれています。『Waving』は、干潟でみることのできるいくつかのカニで観察されています。それぞれの動きやその意味が種類によって違うと考えられています。この『Waving』は、主にオスが繁殖期になるとおこなうことが知られており、繁殖相手となるメスを獲得するうえで重要な行動のひとつであると考えられています。



踊るチゴガニ その2

葛西の干潟では、「ヤマトオサガニ」「チゴガニ」「コメツキガニ」が『Waving』をすることが知られています。また、葛西の干潟では見ることができませんが、瀬戸内海や九州などで見ることのできる「ハクセンシオマネキ」（オスの片方のハサミ脚がとても大きいカニ）のWavingは有名です。これらのカニたちは、本州では初夏から秋にかけて繁殖することが知られており、これからの時期はカニにとって恋の時期になります。恋の相手を求めて「ダンス」をするオスを見に、干潟にでかけてみてはいかがでしょうか？



穴から出てきたヤマトオサガニ

生ひがたの生きものの図鑑